

スキルス胃癌は線維性増生を伴いながら急速に増殖進展し、板状を呈する硬い癌で、高頻度に転移し予後不良な典型的難治癌である。HER2 や VEGFR2 を標的とした治療薬が胃癌に承認され、治療成績向上が期待されている。しかし、スキルス胃癌に特化した分子治療標的薬はまだない。スキルス胃癌は、臨床病理学的にも分子生物学的にも特徴的な点が多くあり、この特性を標的とした治療薬の開発が期待される。スキルス胃癌治療の現状と、今後期待される分子標的治療について述べる。

スキルス胃癌に対する 分子標的治療の展開

Key words

スキルス胃癌／線維芽細胞／FGF 受容体 (FGFR) ／
TGF β 受容体 (TGF β R) ／分子標的治療

准教授

八代正和

Masakazu YASHIRO

大阪市立大学大学院癌分子病態制御学／
大阪市立大学大学院腫瘍外科／
難治がんトランスレーショナルリサーチセンター

編集部註：本稿は2016年9月に執筆されました。